

IV. ノア



エノクの例と同様、ノアが「祈った」ということについても、聖書ははっきりとは語っていません。しかし、ノアの信仰面での探求は、「ノアは神とともに歩んだ」(創 6:9)とあるように、エノクと同じ言葉を用いて、同じものとみなされています。

ノアの世界を見ると、彼が神と生き生きとした接触とコミュニケーションを維持していたことは疑う余地がありません。聖書は繰り返し、神がノアに語りかけておられたことを示しています(創 6:13、7:1 を参照)。それに対してノアは、「すべて主が命じられたとおりにした」(創 7:5)とあるように、静かな従順をもって応答しました。

ここには、「神と祈りというコミュニケーションを持ちたい」と願うクリスチャンの誰もが学ぶべき、深い教訓があります。すなわち、神の言葉に耳を傾けるということは、神に喜んで従いたいという思いと直接に関係しているのだという教訓です。神が沈黙しておられるのは単に私たちの心が神に完全に捧げられていないからなのかもしれません。

ノアの時代においては、神に対する心を持っていたのはノアだけでした。「主は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった」(創 6:5)とあるように、同時代の人々は様相が全く違ったのです。したがって、神がそのような人々にお語りになれなかったというのは、さほど不思議なことではありません。彼らにとって、祈りとは馴染みのないことだったからです。彼らの思いに神の存在はありませんでした。神とともに歩み、神のために生き、神との関係を保つということは、彼らにとって、今日の多くの人々にとってもそうであるように、愚かなことにほかならなかったのです。イエスの言葉が思い出されます。

「人の子が来るのは、ちょうど、ノアの日のようなからです。洪水前の日々は、ノアが箱舟にはいるその日まで、人々は、飲んだり、食べたり、めとったり、とついたりしていました。そして、洪水が来てすべての物をさらってしまうまで、彼らはわからなかったのです。人の子が来るのも、そのとおりです。」(マタイ 24:37-39)

ノアの世界にはまた、聖書の中で祭壇というものが初めて言及されているのが見られます。

「ノアは、主のために祭壇を築き…祭壇の上で全焼のいけにえをささげた」(創 8:20)。

ノアの祭壇は、祭壇を築くという行為を導入するものとなりました。全焼のいけにえは、神への献身と讚美を象徴するものでした。祭壇は、神との関係、神への礼拝を意味するものでした。祭壇は祈りと密接に結びついていたのです。この結びつきは、ヨハネの黙示録 8 章 3-4 節でも語られています。

「また、もうひとりの御使いが出て来て、金の香炉を持って祭壇のところに立った。彼にたくさんの香が与えられた。すべての聖徒の祈りとともに、御座の前にある金の祭壇の上にささげるためであった。香の煙は、聖徒たちの祈りとともに、御使いの手から神の御前に立ち上った」。

黙示録のこの祭壇については、W・ショー・カルデコット(W.Shaw Caldecott)という人が次のような観察をしています。

それは「御座の前にある金の祭壇」として描かれており、聖徒たちの祈りが、香の煙とともに神の御前に立ち上ったとある。この情景は、(ルカが)祭司たちが香を焚いたときに「大ぜいの民はみな、外で祈ってい

た」(ルカ 1:10)と語っているのと調和している。このように、救いはいけにえの血によるということと、偉大な大祭司のそばで捧げられる、聖徒たちと罪人たちの祈りを通して得られるものとされるのだという豊かな真理を、歴史と預言との両方が証言するところとなっているのである。

神の啓示によって、ノアは、自分が神に受け入れられていること、自分の祈りが神に聞かれるのはひとえに血のいけにえによるのだということを理解していました。同じ原則は今日にも当てはまりますが、今日にあっては、血はカルバリでただ一度、流されたものだけです。イエスが次のようにお語りになったのはそのためです。

「わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません」(ヨハネ 14:6)。

「イエスの御名によって」祈りがなされる時、私たちは、イエス・キリストの力と栄光を想定しているのみならず、神ご自身によるこの犠牲と、流された神の御子の血によって、神に近づくことができること、神に受け入れられていることもまた想定しているのです。ノアは、祭壇を築き、その上でいけにえを捧げるとき、この原則を信仰によって理解していたのです(ヘブル 9:21、10:19 も参照)。

? 質問

- 1 ノアが神と生き生きとした接触とコミュニケーションを維持していたことは聖書のどのようなことからわかりますか？
- 2 神とノアの祈りというコミュニケーションから、私たちは どのような深い教訓を学ぶことができますか？
- 3 ノアの物語で、聖書の中で初めて言及されているものは何ですか？
- 4 ノアは、何によって、自分が受け入れられ、自分の祈りが聞かれていると理解していましたか？ 私たちは、何によって自分と自分の祈りが受け入れられていると信じることができますか？
- 5 確信に至るまで、祈る必要があります。自分の祈りが神に受け入れられたと深く確信した体験がありますか？
- 6 今日読んだ箇所から、あなたは祈りについてどんなことを教えられましたか？
どんなことを実践したいと思いますか？



祈り

主よ。あなたをほめたたえ賛美します。私はあなたを賛美する ために造られ、救われたと を感謝します。私の賛美を受け入れてくださいますように。